

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2090500048		
法人名	特定非営利活動法人 心		
事業所名	グループホーム げんき		
所在地	飯田市座光寺3601-12		
自己評価作成日	平成 30 年 1 月 29 日	評価結果市町村受理日	平成30年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2090500048-00&PrefCd=20&VersionCd=022
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	非特定活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成30年3月1日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

地域密着のグループホームとして、地域における役割を求め、様々な場所で地域福祉の一端を担うべく努力しています。入居者の方々も職員も「共に」地域の一人として何をしたいか、何ができるかじっくり考え、積極的に取り組む姿勢です。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

元善光寺の古くからの門前町にあるこのグループホームは、設立当初から地域との問題を抱えてきていたが、利用者や職員、管理者の地道な努力によって地域の一人として認められ、存在感を得ている。組合に入って会合に出席するだけでなく、奉仕活動にも利用者と一緒に参加し交流を広げている。また、近所の方や通りすがりの観光客にも挨拶を交わし、隣近所とはお裾分けをしたりするなど交流を深めてきている。これからは、地域と結びついた運営推進会議を推進する中で、開かれたグループホームづくりを目指していきたい。
この2年間は、職員の異動が多く、管理者もたびたび代わって大変な時期を迎えてきたが、現在は、新しい管理者と職員とが一体となって利用者のケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		項目		項目	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)			取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に見える所に理念を掲げ、職員に確認をしてもらい、理念に添った生活が日々送れるように努力している。	「共に 笑い 楽しみ 悲しみ 生きる」を理念に、職員に周知、徹底し、実践に取り組んでいる。特に、利用者一人ひとりに目を向けて理解し合いながら、「食べる楽しみを味わっている」と、管理者は語っていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りやイベントに入居者の方々と参加したり、「げんき」で行う夏祭りには参加していただいたりするなど、交流を広げている。また、地域の人や元善光寺にくる観光客は問わず、大きな声で挨拶を交わしている。	グループホームがこの地域にできた時から課題であった近所付き合いは、利用者や職員の地道な努力によって改善されてきた。散歩に出かけたりする時には誰とでも挨拶を交わしたり、地区の掃除に利用者と職員が一緒に参加したり、いろいろな物を近所にお裾分けしたり、「げんき」で行う祭りには参加していただいたりして、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に出席する時、ご近所の方との会話の中で情報提供をしたり、中学生の職場体験や短大生の実習を受け入れたりして、その中で支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホーム内の行事や入居者の方々の状態や状況を伝え、意見またはアドバイス等をいただき、取り入れている。	運営推進会議は、民生委員や包括支援センター職員、家族代表をメンバーに、年6回開催している。グループホームの現状や利用者の状況などを報告したり、地域との関わりなどについて話し合っている。	これまで地区の代表の方の参加があったので、継続していくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会やグループホーム連絡会等に出席し、情報を共有して協力体制を築いている。	運営推進会議には、毎回包括支援センター職員の参加を得て、情報交換を行っている。入居者関係の手続き等については、同一法人の事務職員に任せている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、拘束をしない介護に努めている。仮に拘束が必要と認められる場合には、家族と相談の上、同意書を得るようにしている。	自分から外出する傾向がある利用者には、センサーマットを散りつけたり、見回りを多くしたり、一緒に外出したり、気分転換のため車でドライブに出かけたりして、身体拘束のないケアに努めている。また、利用者に対してヒステリックな言葉遣いになったり、知らんぷりしたりすることのないよう、職員同士で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会があれば、職員に参加してもらい、職員会議などで内容を共有し、注意し合い、防止に努めている。		

グループホーム げんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議を通じて勉強会を開いたりして理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前等に説明をし、ご理解していただいた上で入所していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が現場にいることが多く、面会などの時に話を聞く機会があり、それを運営に反映している。	運営推進会に家族代表の参加を得て、意見や要望を反映できるようにしている。ふだんは、管理者を中心にして、面会の時や電話連絡の時などを活用して、利用者や家族の要望や意見を汲み取るよう努めている。	これまで家族会があったので、何らかの形で利用者や家族の意見が反映できる仕組みをつくることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が常に現場にいるので、職員の意見や提案を聞き入れ、必要であれば理事長に進言するように努めている。	月1回の職員会議には職員全員が出席し、理事長も参加して、行事やシフト、ケアなどについて活発に意見交換を行っている。ふだんは管理者を中心にして、職員の意見や提案をきめ細かく受け入れるようにしているので、「職員同士のまとまりが良い」と、職員は答えていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価してもらい、さらなる向上心を持って勤務ができるように就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の中で、研修会の情報を多くの職員に知識として身につけてもらうように勉強会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のグループホーム連絡会の研修会に参加する等して、サービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活状況をふまえて、安心して過ごせるように、本人の声にしっかり耳を傾け、信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの本人の生活状況をふまえて、安心して過ごせるように、家族の要望にしっかり耳を傾け、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や状況を把握し、それを職員間で共有し、ケアにつなげている。家族には入所後の本人の状況を密に連絡している。また、その後のサービス導入も柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に苦楽をわかちあえるよう、日々楽しく暮らしていけるように本人との人間関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と同じ思いで寄り添いながら、また、家族とともに支えていけるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴をもとに、友人と連絡をとり、これまで大切にしてきた場所や地域などの関わりを大事にして、その生活習慣を尊重している。	家族ばかりでなく、親戚や友人の訪問や電話があり、できる限りの支援を行っている。また、お盆やお正月には墓参りをしたり、実家に帰ったりできるように支援している。また、家族との外出、外食などの要望にも応え、よりよい関係が続くよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や食事等の時間は職員と一緒に飲食し、多くの会話で入居者の方々の関係が円満に行くように努めている。		

グループホーム げんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性が無くなっても、相談や支援ができるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向または、生活習慣等からケアの方針を決め、本人本位の計画を作成している。	利用者本人の思いや意向を、生活歴だけから辿ったり、家族との話し合いから理解するのは、なかなか難しい点があるので、日々の様子や言葉から、モニタリングシートを使って把握し、介護計画作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前面接をしたり、多方面のサービス提供している方から情報を収集したりして、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話やバイタルチェックを通して、心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にてモニタリングを行い、それをもとに見直し、本人、家族の要望をとり入れた介護計画書を作成している。	利用者の「介護記録」や「業務日誌」の個別の記録、そしてモニタリングシートをもとに仮の介護計画を作成している。サービス担当者会議でモニタリングを行って見直し、利用者や家族の思いや意見を聞きながら、より本人に合った介護計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録用紙に毎日記載することと、勤務に就く際、朝礼などで必ず申し送りをするようにして、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリの提供、緊急時の医療連携などの経験により積み上げてきている。		

グループホーム げんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方々が安全に地域で暮らしていけるよう、民生委員などと意見交換をしながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重し、往診または家族による受診ができるように支援している。かかりつけ医とは良好な関係を築いている。	入居前に話し合っ、希望するかかりつけ医に月1回往診してもらったり、必要時に受診してもらおうようにしている。歯科医にも往診や受診できるように支援している。また、訪問看護を受け入れるようにしているので、安心して健康について任せられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々のケースにより、必要であれば訪問看護など受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために、医師や担当看護師または相談員と綿密な連絡をとり、早期退院ができるよう関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いはもちろんのこと、職員間でもしっかり話し合いを持ち、重度化や終末期に向けた支援ができるようにしている。また、かかりつけ医との情報の共有に努めている。	利用者が重度化し、終末期を迎えるような時には、希望によりかかりつけ医と連携して看取りができることを本人や家族と話し合っている。この2年間、2名の重度化した利用者がいたが、病院で看取るということで、退所している。現在、車椅子利用者3名、歩行器利用者が3名みえる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習会があれば参加してもらうようにしている。また、職員会議で対応について話し合い、確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団や消防署の指導を受け、定期的に消火訓練、避難訓練を行っている。連絡網での避難訓練も年に1回行っている。	消防署や地域の消防団の協力を得て、6月に火災における通報訓練、10月に火災による避難訓練を実施している。地震対策として、食料品の備蓄などを行って、万一の事態に備えている。	

グループホーム げんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	先輩を敬い、敬意を持って接するよう心掛け、プライバシーの確保を重視している。	職員は利用者に対して、上から目線にならないように、言葉遣いに細心の注意を払っている。また、自尊心やプライバシーを損ねないように、利用者自身が選択し、自分でできることは自分でするように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どちらにしますか？」と選択肢の中から選んでいただけるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、自分らしく自分の時間を大切に過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択肢をつくり、本人に選んでいただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを把握し、それぞれに合った食事の提供を行うよう支援している。	利用者ができる範囲で、食材の下ごしらえを手伝ったり、後片付けを手伝ったりして楽しく会食ができた。利用者は季節のフキノトウなどを「おいしい、おいしい」と言って食べていた。お粥やおかずを刻み食にしている利用者もいたが、時間をかけて支援されながら完食していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、個々に合った食事提供ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや義歯の洗浄を行っている。必要あれば歯科医と連携して口腔内の清潔に努めている。		

グループホーム げんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄力を把握し、その人に合った排泄介助ができるよう支援している。	パンツ利用者3名、リハパン利用者5名、オムツ利用者1名となっており、利用者それぞれに合わせた排泄介助を行っている。また、排泄記録をとり、自力で排泄できるように誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をつけ、便秘の人にはマッサージなどを施行している。定期処方以外の服薬は控え、飲食物の工夫などで解消の方法を探っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が楽しみの一つとなるよう、また、入りたい時に入れるよう支援している。	1週間に2回、3日に1回程度、入浴できるようにしている。入浴を嫌がる利用者もいるが、入りたい時に入れるように支援している。利用者の中には重度化して、職員2人で介助することが増えてきている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で寝られない時は居間で休んでいたり、その人にあつた場所や時間で休んだりできるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服用している薬のリストを作成し、職員全員が閲覧し、把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方々が食べたい物を言ったり、個々の趣味を活かしたりできるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に希望があればそのつど外出したり、季節が感じられるようなその時期に外出したりできるように支援している。また、希望があれば美容院や理髪店にお連れしている。	ふだんは周りを散歩したり、グループホームの前の広場で日光浴をしたりして、近所の方や通りすがりの方と挨拶を交わしたりしている。四季の折々にはいろいろな花見をしたりして楽しんでいるが、トイレの完備していない所がまだまだあるので、行きたい所へ行けないこともある。外出できない時には、レクリエーションや体操などをやって気晴らしをしている。	

グループホーム げんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な方には、お金を持っていただいたり、自己管理をしていただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連絡をとりたい方には電話を貸す等支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節折々の花を飾って目で楽しんでいただいたりして、居心地良く過ごせるように工夫している。	廊下は広く、居間は明るく広くとっており、3方向に非常口がある。ソファや椅子があちこちに配置され、こたつもあり、気の合った利用者がテレビを見たり、語り合ったりできる空間となっている。四季折々の花や植物が置かれ、利用者の作品や写真も飾られ、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置したり、気のあった入居者の方同士で話ができるよう座る場所等を工夫したりして、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の生活歴を尊重し、馴染みのタンスやベッドを持ってきていただくなど、自宅の環境と変わらない空間づくりを工夫している。	各部屋は冷暖房が完備され、自分の洗濯物をたたんで入れるタンスなどを持ってきているなど、自分好みの居室になるように工夫されている。また、家族の写真などを飾って、気休めできる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のレベルを維持していくため、歩行器など個人の状態、状況にあわせて自立した生活が送れるよう支援している。また、廊下やトイレには手すりを設け安全にも配慮している。		